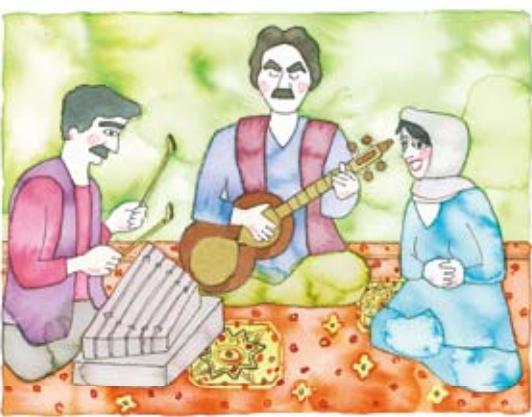


わかりにくくも魅惑的な イラン音楽の世界とは。

神戸学院大学 人文学部講師
Masato Tani



皆さんが好ましいと思うのは、どんな音楽でしょうか。聞き慣れたメロディーラインで、すぐに楽しいとか美しいと感じることのできる音楽ではないでしょうか。では、もし馴染みのない旋律の音楽を聴いた場合はどうでしょう。聴いた時点での音楽をわからぬものと判断し、それ以上聴こうとしないのではないかとおもいます。ペルシャ民族のなかで独自に発達したイランの伝統音楽は、私たち現代の日本人にとって、こうした「わかりにくい」音楽の部類に入るものと言えるかもしれません。

イランをはじめとする中東の音楽には、「微分音」と呼ばれる、西洋音楽の半音よりもっと微妙な“ $1/4$ 音”“ $1/9$ 音”といった音程が存在します。この微音が曲のなかで多用されるために、西洋音楽を聞き慣れた耳にはとつつきにくい音楽だと感じるのです。しかし、拒絶せずに聞き続けると、これが実に魅惑的な旋律に思えるようになるから不思議です。私も、その独特の魅力に取りつかれたひとりです。特に「サントウール」というイラン起源の打弦楽器の虜になりました。自ら演奏するまでになりました。現在もイラン音楽の研究のかたわら、演奏活動を続けています。

イランの伝統音楽は、もともと各地方で口伝えによって継承されてきたものが宮廷音楽としてさらに発展したものであります。それが20世紀に入り、西洋音楽の影響を受けて音楽が五線譜で表現されるようになつてから習う層も一気に拡大。現代の日本人が日本の伝統音楽に親しむ以上に、老若男女を問わず愛され親しまれています。通常、サントウールをはじめ、イラン独特的の音色を持つ弦楽器のタールやセタール、胡弓のように弦を

こすつて弾くキヤマンチエ、葦笛のネイ、また、中東全体で広く使われるウードといった弦楽器や、

イラン独特的の弾き方をする太鼓・トン



バツクなど7、8人ほどの編成で演奏されます。これらの楽団に、ゲストとして歌い手が招待され、恋愛や人生の悲しみ、辛さを切々と歌い上げ、観客は物思いにふけるかのように聴き入るというのが定番のスタイル。イラン人は非常に詩が好きな国民です。誰もがお気に入りの詩を持つていると言われるほどです。詩の朗読会と演奏会がセットになっていることも多く、「言葉を語るように演奏できる楽器奏者は人気が高い傾向にあります。

今年の秋から冬にかけて、神戸学院大学主催で「わからない音楽の会」と題したコンサートが3回に渡って開催されています。最終回の12月6日には、「アラブ～ペルシャ～インド」を叩く民族音楽の世界から」と題した演奏会が予定され、私もサントウール奏者として参加します。冒頭に申し上げたように、わからないという理由だけで異文化の価値を知る機会を逃すことは非常にもつたいたいことです。わからないから、知りたいと努力してみる。その結果、お互いの文化を理解し合えるのです。今後も、演奏者として腕を磨き、本場でも認められる実力を身に付けたい。そして、研究も続けてイラン音楽という異文化の魅力を紹介していきたいと思っています。

※バックナンバーは、本学ホームページでご覧になります。



神戸学院大学

法学部	経済学部	経営学部	人文学部	総合リビリテーション学部	栄養学部	薬学部
有瀬キャンパス	ポートアイランドキャンパス	長田キャンパス(法科大学院)	〒651-2180 神戸市西区伊川谷町有瀬518	TEL:078-974-1551(代)		
			〒650-8586 神戸市中央区港島1-1-3	TEL:078-974-1551(代)		
			〒653-0862 神戸市長田区西山町2-3-3	TEL:078-691-4888(代)		

※大学院人間文化学研究科心理学専攻が財団法人日本臨床心理士資格認定協会の臨床心理士第一種指定校として指定されました。

<http://www.kobegakuin.ac.jp/>